

# 大山寺僧坊跡調査の成果を公開!!

教育委員会では、大山寺・寂じやく静じやう山南側の山中にある40カ所余りの僧坊跡群のうち、J-14と呼んでいる僧坊跡について発掘調査を実施してきました。調査の結果、たくさん成果も得られたことから、その成果を広くお知らせするための一般公開を行いました。

## 発掘調査について

教育委員会では、合併前の平成16年度から大山寺僧坊跡の保存を目的に「大山僧坊跡等調査委員会」を設置し、大山寺僧坊跡の国史跡指定をめざして、学術的な価値を確定するための総合調査に取り組んできました。

今回の発掘調査もその総合調査の一つとして実施したものです。

発掘調査自体は昨年6月に着手し、冬季中断を経て本年4月に再開してから、本格的に実施してきました。

これまでも、大山寺僧坊跡において実施している発掘調査についてお知らせし、また、ミニ講座でも大山寺についてお話をし

ました。

## 現地説明会

一般公開の第一弾として、10月17日(土)に現地説明会を行いました。

当日は、受付場所から現地まで20分以上歩いて移動しなければならぬという、敬遠されがちな条件であったにもかかわらず、説明会には100人近くの参加者があり、大盛況でした。



現地説明会の様子

## 報告会と出土遺物解説

10月24日(土)・25日(日)には、第2回大山町総合文化祭の関連事業・第5回「大山寺」講座として、発掘調査で分かったこと、調査成果から考えられることをより広く知っていただくことを目的に「見えてきた『中世の大山寺』」(発掘が語る「大山寺僧坊」の実態)をテーマに、調査成果の報告会と講師による出土遺物の解説と講演会を、会場内の民芸伝承館において行いました。

当日は、初めに講師の上原真人さん(京都大学大学院教授)から出土遺物について分かりやすく解説をしていただき、次いで発掘を担当した町文化財調査員がプロジェクター画像で調査成果の説明を行いました。

## 講演会

講演会は、大山僧坊跡等調査委員会の委員でもある講師の上原真人さんが「大山寺僧坊とは何か」と題して話されました。上原さんには他地域の調査例などもまじえ、僧坊とは何かということや、大山寺に僧坊群が発達した背景について考えられることを話していただきました。



講演会場(民芸伝承館)の様子

その中で、「地域資源が大山寺の発展の要因であったとは考えにくい。中世の牛馬は運搬用途が中心であり『馬借車借』という運送業があった。大山寺発展の要因の一つとしてこの運送業を大山寺が掌握した、あるいは陸内運搬に関する利権を得た、などを考えてみてはどうか」と提言されました。

当日の参加者は100人に及び、会場が満員となる盛況ぶりでした。

あらためて、大山寺僧坊群の歴史について、皆さんの興味関心の深さを感じました。